

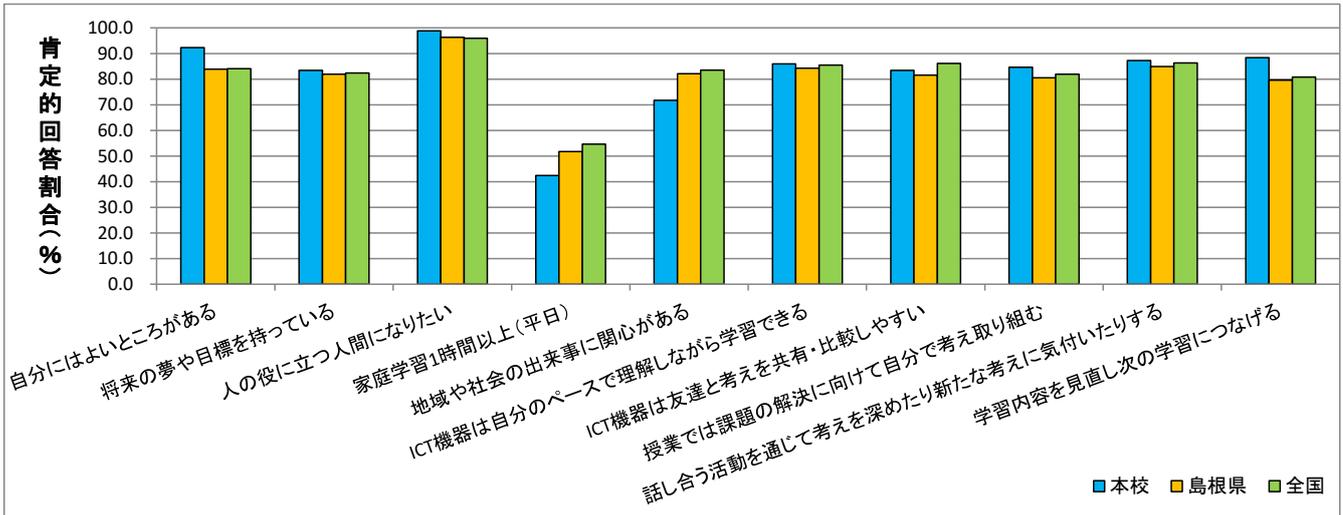
(1)学力調査結果から見られた傾向

| | 成果と課題(○:成果, ●:課題) | 対策(・) |
|----|--|---|
| 国語 | ○正答率は、短答式は高く、選択式は平均的である。 ○「国語の勉強は大切だと思いますか」については、97%の児童が肯定的に捉えている。(全国を上回っている。) ●記述式の正答率が低い。特に、思考・判断・表現領域である、「書く」ことに抵抗がある児童が多い。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、全国平均・県平均を大きく下回っている。 ●「新聞を読んでいますか」については、読む児童は6%で、読まない児童が94%と多い。 | ・国語だけでなく他教科でも、お互いの意見や考えを伝え合う活動がある。自分の考えをもち伝え合う学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。 ・課題に対して、自分の考えが持てていない状態で「書く」活動は難しいことから、説明的文章の読み取り等で理解したことを「話す」活動を計画的に行い、「話す」活動を行った後に「書く」活動を積極的に取り入れていく。話したことを自分なりに整理しながら「書く」という経験を積み重ねていくことで、「書く」ことに対する抵抗感を取り除いていく。また、文字制限や引用等の条件が複数ある問いに対する苦手意識が強いため、日頃から類題に取り組む必要性もある。 ・学校図書館活用教育では、新聞活用教育やICTと組み合わせて取り組んでいく。 |
| 算数 | ○基本的な計算や□を用いた立式をするなどの正答率は他と比べると高く、学年相当の基本的な計算の力がついている児童が多い。 ●どの領域も全国平均を下回っている。特にポイントが低いのはC(変化と関係)領域である。 ●記述で答える問題の正答率が全国平均と比べて10%近く下回り、無回答率も高い。 | ・既習事項を振り返りながら学習を積み重ねられるよう、繰り返し基礎問題に取り組む時間を作る。 ・友達に説明する時間や記述で答える時間をつくり、アウトプットしながら学習する活動を取り入れる。 ・文章問題の中で「聞かれていること」や「分かっていること」などを読み取り、図や表等にまとめられるよう、ていねいに指導する。 |

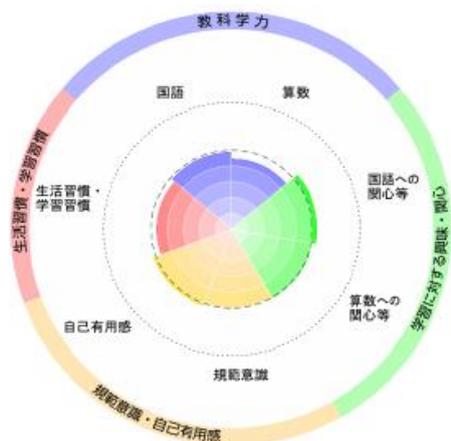
(2)質問紙調査から見られた傾向

| | 成果と課題(○:成果, ●:課題) | 対策(・) |
|-----|--|--|
| 質問紙 | ○ICT機器を使う有用性や必要感を感じている児童が多い。 ○自己肯定感が高い。 ○どの教科も学習することは大切だと思っている割合は高く、教科の学習を好きと答えている児童も割合も高い。 ●学習したことが日常の経験とどのようにつながっているのかを意識することが少ない。 ●家庭でメディアに触れている時間が長く、その分家庭学習をする時間が短い。しかし、家庭でのメディアの約束を守っている児童は多い。 | ・すべての教科・活動において、振り返りの場を丁寧に行い、得た知識を日常経験にどう活かせるかを考える機会を増やしていく。 ・タブレットを使った調べ学習やドリル学習をどの教科でも計画的に進めるとともに、ICT機器の機能を十分に活かした授業を展開していく。 |

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「主体的に学びに向かう子の育成～子どもたちのかかわりから授業をつくる～」というテーマで研究を進めているので、研究授業では1～9年生の全教職員が参加し、発達段階に応じた指導の在り方を考えていき、9年間の見直しをもって指導できるよう授業改善をしていく。

・学習規律や基礎学力を高められるよう、家庭の協力を得ながら取り組むや指導を行っていく。

【受検者数】

76名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。